

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1292700141		
法人名	平和ヘルスケア株式会社		
事業所名	平和の里グループホームふさ		
所在地	千葉県我孫子市布佐2198番地		
自己評価作成日	平成22年2月1日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaigo.chibakenshakyo.com/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社アミュレット		
所在地	東京都中央区銀座5-6-12みゆきビルbizcube7階		
訪問調査日	平成22年2月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

長年培ったご入居者の力を発揮していただけるよう、掃除等はご入居者と一緒に行っている。日中アクティビティに参加し、皆様に興味を持って楽しんでいただけるように、スケジュールや企画をたてている。
 スタッフは、ご入居者がありのままの姿で、笑顔でご本人らしく生活できる場を作ろうと努力している。ご入居者にあったケアを行い、穏やかにくつろげる時間を提供していく。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームの理念は、「平和の里宣言」として謳われており、掲示板への掲示やマニュアルファイルに綴られているほか、職員会議で振り返る機会を因るなど、職員間で共有できる体制を整えている。日々の支援では、職員一人ひとりが、自立支援、家庭的なケアに対する意識を高め、利用者のその人らしさが引き出せるよう支援している。地域とのつきあいにおいても、自治会への加入のほか、近隣センターの祭りへの参加、近隣スーパーへの買い物、ボランティアの導入を通じ交流を深め、地域に根差したサービスが展開されている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念を事務所や掲示板に掲示し、管理者はわかりやすい言葉で職員に伝え、職員は実践しようと努力している。	ホームの理念は、「平和の里宣言」として謳われている。「平和の里宣言」は、掲示板への掲示やマニュアルファイルに綴られているほか、職員会議で振り返る機会を図るなど、職員間で共有できる体制を整えている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会や社協をはじめ、地域のイベントへ参加・協力をしている。	地域とのつきあいにおいては、自治会への加入のほか、近隣センターの祭りへの参加、近隣スーパーへの買い物等を通じ交流を深めている。また、管理者が、社会福祉協議会の役員となり、地域情報を積極的に収集している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	「介護相談センター」で相談を受付けている。掲示板等を活用し啓蒙・告知を行っている。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	介護支援課の職員、民生委員、地域住民の代表等に参加いただき、貴重な意見・提案をいただき、サービスの向上につなげている。	運営推進会議は3ヶ月に一度のペースで実施されている。民生委員や地域住民、市の介護支援課の方に参加して頂き、行事報告、現況報告をおこなっている。定期的な開催によりホームの取り組み状況が参加者の方に伝わってきている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護支援課や地域ケア担当者と、随時、連絡・調整を行っている。	市の担当者との連携に関しては、市の介護支援課及び地域ケア担当者と連携を図り、協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日々、身体拘束について話し合い、予防しながらケアを実践している。	県の主催する、身体拘束廃止に関する研修に参加をし、身体拘束をしないケアの実践に取り組まれている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	利用者の言動に注意を払い、報告・連絡を行っている。	/	/

平和の里グループホームふさ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	介護支援課、主治医等と連携し、支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書や重要事項などの書類を使用し、十分な説明を心がけている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常的に家族と関わりを持っている。 外部評価機関や介護相談員を取り入れている。	家族からの意見収集は、ケアプラン説明時に、ケアに対する意向等直接聞き取り、日々の支援に反映している。また、月に1回介護相談員が来訪され、利用者から直接意見を聞き取り、要望に即した支援に向け取り組んでいる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議や申し送りを行い、意見交換を行なっている。また、全体報告会や個人面談を通し、施設運営に関する意見を聞く機会を設けている。	職員からの意見に関しては、職員会議時、及び日々の申し送り時に意見交換を行うほか、個人面談を通じ、運営に関する意見等収集している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の実績評価にて、個々の実績を把握し給料等に反映している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	在籍期間、能力に応じて外部研修に参加、また全体報告会を通じて個々の能力を高めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内、同業者との交流会に参加したり、他施設を見学する機会を設けて、自施設のサービス向上に努めている。		

平和の里グループホームふさ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用開始前にご自宅を訪問したり、資料の提供、見学などに応じ、より多くのお話が伺えるよう努力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用開始前にご自宅を訪問したり、資料の提供、見学などに応じ、ご家族それぞれのお話が伺えるよう努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	関連各所と連携を持ち、本人や家族の希望に即した的確な初期対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、暮らしの一つ一つ「一緒に」することを心がけている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は、ご本人とご家族との関係の理解に努め、かつ、ご家族の協力を得ている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族・縁者の面会を促している。	本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないように、家族や友人の面会をホーム側からも促すほか、馴染みの美容室に入居後も通えるよう支援し、これまでの関係が継続できるよう努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	さりげない見守り、傾聴により、孤立することのないように支援している。		

平和の里グループホームふさ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	相談に見えた方のその後について、近況の把握や必要な情報の提供等に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話の中から、できる限り希望、意向を聞き取り、次のケアに活かせるように努力している。	利用者の思いや意向を把握するために、日常会話から意向等引き出せるよう取り組まれているほか、毎月利用者のカンファレンスを開き、各職員からの意見を収集し、利用者の意向に即した支援が図れるよう取り組まれている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人・ご家族・関係者からの聞き取りを行い、資料等を通して職員に周知し、ケアに活かしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の申し送り、毎月の処遇会議にて把握、検討している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンス担当者を中心に、毎月、見直しをしている。	ケアプラン作成に関しては、毎月のケアカンファレンスで職員の意見を収集し、本人の状態に即したプランを作成している。作成後は家族への説明のほか、現状に即したプランのもと支援できるよう毎月見直しを実施している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録と連絡ノートを活用し、入居者の変化に気づけるよう努力している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個別ケアの視点に立ち、検討・実施している。		

平和の里グループホームふさ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の施設、行事等を把握し、参加できるよう努力している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	必要に応じて、受診時にデータを用意したり、時には同行している。	利用者が適切な医療を受けられるように、入居前に利用していたかかりつけ医または、ホームの協力医療機関への受診が可能となるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、看護師に伝え相談し、個々の入居者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者が入院した際は、病院関係者との情報交換や相談に努めている。 また、協力病院がある。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時、その後は随時、入居者の「今後」について、ご家族と話し合い、方針を共有できるよう努力している。	重度化や終末期に向けた方針に関しては、契約時に、今後の方針に関し、家族と話し合い、出来る限り早い段階から、重度化や終末期を迎えた際の対応について共有できるよう努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	施設内で、定期的に上級救急救命講座を開催する等、実践力を身に付ける努力をしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練を通し、避難場所等を確認している。	突発的な災害に備え、年度内に2回避難訓練を実施している。全職員に避難方法が周知できるように、ホーム内に避難経路を掲示している。避難場所においても職員に周知し、統一した対応が図れるよう取り組まれている。	

平和の里グループホームふさ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格の尊重を第一に考え、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや行動をするように努力している。	ホームでは一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応ができるよう、職員間で注意を払い、管理者からも日々声をかけ、不適切な対応にならないよう取り組まれている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来る限り希望や思いを聞き入れて支援できるように努力している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の時間の大きな流れは無視できないが、一人ひとりの生活習慣を大切に、余裕を持って過ごして頂ける対応を心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎朝、身だしなみの時間を設けたり、好みの化粧品を補充したり、限られた中にも気持ちよく過ごして頂けるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	準備に追われる場面も見られるが、楽しみや時間としていただけるように、おやつ作りや夕食作り等を実施している。 また、日々の食事準備も入居者と共に行っている。	食事は、併設の有料老人ホームから運ばれるが、ホーム内でも、利用者の状態に応じ、準備を手伝っていただくほか、ホームで食事を作る時には利用者にも参加頂いている。その他おやつ作りや野菜作りにも利用者が参加できるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりに合わせた食事形態や量などを工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声掛けを行い、一人ひとりに合った口腔ケアを行っている。		

平和の里グループホームふさ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を確認しながら誘導している。また、一人ひとりの排泄のパターンを把握し、随時、排泄ケアの検討を行っている。	利用者一人ひとりの排泄パターンは「排泄表」に記録される。職員は、利用者の排泄パターンを随時確認し、利用者の状態に応じた排泄ケアに取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	嗜好飲料や、毎日の運動・歩行等で便秘予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一人ひとりのタイミングに合わせて入浴を楽しめるよう声かけや時間帯等の工夫をしている。	入浴については、一人ひとりのタイミングに合わせて、週2回入浴できるよう支援している。入浴中は職員が介助に入り、安全に入浴できるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとり、その日の体調や希望に合わせて支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員が薬の用法等を常に把握できるよう管理している。服薬と症状の変化を観察し、記録と申し送りを行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活習慣、好みを活かした役割や楽しみを持ってもらうことで生活の活性化を図っている。デイサービスへの参加も促している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	小グループで散歩や買い物、地域行事、日帰り旅行に出かけている。家族の協力を得て、外出をしている。	外出支援については、日常的な買い物のほか、地域行事への参加、日帰り旅行の実施など、家族の協力も得ながら、戸外での活動の充実に取り組まれている。	

平和の里グループホームふさ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族と相談の上、一人ひとりの希望や能力に応じて、お財布を持っていただき所持の安全性を重んじている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の希望に沿って対応している。年賀状の作成、家族へ電話をかける等の支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	天窓など、自然光が入る工夫をしている。白熱灯や間接照明等、柔かい照明を使用している。 特にトイレ、洗面所等は次の方が不快感を持たないように気を配っている。	利用者が集う、リビングスペースは、天窓からの光により、明るく、快適に過ごせる空間であり、畳のスペースも設けられている事で、くつろぎの場も提供されている。廊下やトイレ、浴室も清潔に保たれているほか、転倒の危険となるものは放置せず、安全面にも配慮されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者の気分や体調を考慮し、ソファーや和室、ダイルームなどを活用し工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅の居間や寝室にあった小物を持参頂く等、工夫をし入居者と共に部屋作りを行っている。	居室内においては、昔から使い慣れた物の持ち込みを可能とするほか、居室内のレイアウトに関しても、利用者及び家族の希望を取り入れ、利用者が安心して過ごせるよう配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの自立を大切にし、理解力に合わせた表示方法を工夫する等している。		